

会報



48号

〔発行責任者〕

清流球磨川・川辺川を

未来に手渡す流域郡市民の会

共同代表 緒方俊一郎 岐部明廣

熊本県人吉市南泉田町25-2 TEL/FAX0966-24-9929

2013年4月29日発行

脱「基本高水治水」研究会 を開催しました！



研究会参加者の皆さん 2013年4月7日

国がダム建設の根拠としているのが、「基本高水」という考え方です。球磨川では、「人吉で毎秒7000トン（基本高水流量）の洪水が発生するが、毎秒4000トンしか流せない（計画高水流量）ので、毎秒3000トンダム等で調節する必要がある」という考え方です。

しかし、このような数値は、国土交通省がダムを建設するために机上で数値合わせした数字でしかないことが、住民討論集会をはじめ、長年の国とのやり取りの中で

明らかになりました。いくら議論しようが国は恣意的な計算で「基本高水」を肯定してきました。

今必要なことは、これまでの洪水被害を検証し、水害被災者の声を聞き、実現可能な治水対策を積み上げていくことです。そこで、手渡す会が呼びかけ、市民による「脱基本高水研究会」を4月6日、7日に開催しました。

人吉旅館での研究会では、今本博健さん（京都大学名誉教授、河川工学）、黒田弘行さん（手渡す会）、渡辺洋子さん（八ツ場あしたの会）、遠藤保男さん（水源開発問題全国連絡会）が基調報告。今本さんは、「基本高水をもとにした治水では、その想定を超えた洪水に対応できない」などと指摘。「河床の掘削や堤防補強など実現可能な対策を進めていく治水が求められている」と述べました。

作家の柳美里さんも参加し、2日間にわたり活発な議論が展開されました。今後も継続的に研究会を開き、議論した内容を冊子にまとめることを確認しました。詳しくは、同封の資料をお読みください。

●2012年3月～2013年4月の出来事

12. 3. 12 2代目くま川ハウス（九日町札の辻）の看板撤去。南泉田町の3代目くま川ハウスに事務所移転
3. 13 ダム事業廃止特定地域振興特別措置法が閣議決定
4. 16 3代目くま川ハウスオープニングイベント(30名参加)
5. 16 元川辺川利水訴訟原告団長の梅山究さん逝去（81歳）
7. 15 九州北部豪雨後の白川の被災状況現地調査(熊本市～立野)
7. 18 九州北部豪雨後の五木、相良村の被災状況現地調査(以降随時)
8. 18 第16回川辺川現地調査（相良村体育館200名参加）
9. 1 荒瀬ダム撤去工事開始
9. 2 川ガキ、川オヤジ養成講座にスタッフとして参加(以降随時)
11. 8 球磨川の「ダムによらない治水を検討する場」第4回幹事会
11. 16 衆院解散によりダム事業廃止特定地域振興特別措置法は廃案
13. 4. 6 脱「基本高水治水」研究会を開催(7日まで)
4. 19 瀬戸石ダム撤去をめざし「豊かな球磨川をとりもどす会(仮称)」が八代市坂本町で発足
4. 26 緊急学習会「ダムをめぐる状況と立野ダム」（ダムによらない治水・利水を考える県議の会の主催）に参加

●手渡す会のホームページ開設！

私たちがダム建設に反対するのは、自然が育んだ豊かな川を保全し、未来に手渡すためです。ところが今も、山や川や海をコンクリートづけにしてしまう動きは全国的に止まるどころか、安倍政権の「国土強靱化計画」でますますひどくなっています。

このような状況を打開していくには、これまでの手渡す会の長年の取り組みを全国に発信し、広げていく必要があります。手渡す会ではこのほどホームページを立ち上げました。パソコンが使える方は、「手渡す会」で検索してください。<http://tewatasukai.com/index.html>

●「検討する場」における国の動き

2008年9月の蒲島知事の「川辺川ダム中止」表明を受け、2009年1月に始まった国・県・地元自治体による「ダムによらない治水を検討する場」の第4回幹事会が昨年11月8日に開かれました。

国土交通省は、「人吉市内では5～10年に一度は堤防が決壊する」との非現実的な想定を持ち出し、危険をあおっています。「やはり川辺川ダムが必要だ」という結論にもっていきたい国交省の下心が見え隠れします。

手渡す会では、ダムなしの河川整備計画が早く策定されるよう、「検討する場」に毎回意見書を提出し、傍聴を続けています。

●7月12日九州北部豪雨

昨年7月12日の九州北部豪雨では、九州南部の球磨川流域でも大な災害が発生しました。手渡す会は直ちに流域の被災状況の調査に出かけ、「ダムによらない治水を検討する場」に意見書を提出しました。

流域のあちこちで山腹崩壊が起こり、家を押しつぶす甚大な災害も発生していました。阿蘇で降ったような1時間に100ミリの雨が4時間も降り続けば、阿蘇をしのぐ災害になっていたことは明らかです。

ところが、日本学術会議の御用学者たちは、相変わらず「穴あきダムをつくれれば安心です」などと、ダム神話を振りまいています。しかし、流域の災害をつぶさに見て歩けば、ダムを造っても全く効果はないことが一目瞭然です。

山腹崩壊は、多量の土砂を川に押し込みます。コンクリートで固められた護岸は、川底にはどっさりと土砂を積み上げます。多量の土砂が堆積しているところは、見事に川から洪水があふれ出していました。

暴れ川は人間の身勝手がつくりだしたものです。私たちは、これからも災害から学びながら、治山・治川の取り組みの大切さを訴え続けます。



3代目くま川ハウスオープン 2012.4.16

●会計報告(2012. 2. 1~2013. 3. 31)

収入の部	金額	備考
繰越金	▲657,018	
年会費・カンパ	1,160,080	グッズの売上、雑収入なども含む
合計	503,062	

支出の部	金額	備考
郵送費	103,795	会報発送、資料発送
交通費	55,220	高速料金、ガソリン代など
事務用品費	22,383	紙代、文具、印刷機インク代など
事務所維持費	237,510	家賃、電気、電話など
その他	293,625	パソコン購入、事務所移転費など
合計	712,533	

(収入) 503,062 - (支出) 712,533 = ▲209,471

◇「手渡す会」は、皆様方の年会費とご寄付のみで運営しております。年会費払込用紙(一口1000円)を同封させていただきました。今後とも、清流を未来に手渡す活動にご協力いただければ幸いです。よろしく申し上げます。

瀬戸石ダム撤去に向けて

～瀬戸石ダム水利権更新は2014年3月です～



さよなら荒瀬ダム! 2012年8月31日

球磨川下流の県営荒瀬ダムの撤去工事が昨年9月1日に始まりました。

ダム撤去開始前日の8月31日夕方には大勢の住民が集まり、荒瀬ダム管理橋の「渡り納め」を行い、祝賀会を行いました。現在、ゲートの撤去工事や、ダム本体の底部2カ所に穴をあける工事が進められています。

しかし、荒瀬ダムの約10km上流には、瀬戸石ダムがあります。瀬戸石ダムもダム湖周辺の洪水水位を押し上げ、水質汚濁など環境にも悪影響を及

ぼしてきました。その瀬戸石ダムの水利権更新が来年3月に迫っています。

球磨川漁協は2011年9月、水利権更新に同意しない決議文を電源開発と国土交通省に提出し、瀬戸石ダムの撤去を求めています。4月19日には八代市や坂本町の荒瀬ダム撤去運動を進めてきた人たちを中心に、瀬戸石ダムの撤去をめざし「豊かな球磨川をとりもどす会(仮称)」が設立されました。荒瀬ダムに続き、瀬戸石ダムも撤去し、美しい昔の球磨川を取り戻しましょう!



荒瀬ダム上流にある瀬戸石ダム

編集後記 今年の8月で、1993年に「手渡す会」を創設してちょうど20年になります。これまで、数多くの活動を長年継続してきたからこそ、川辺川ダム建設中止、五木ダム建設中止、荒瀬ダム撤去という成果を勝ち取ることができました。20周年記念事業としてホームページを開設しました。秋には記念イベントも計画しています。これからは、川を守ってゆく後継者を育成していくことが大きな課題です。最近では多くの学校で、川で遊ぶことが禁じられているという残念な現実もあります。人吉市教育委員会への働きかけで、手渡す会のスタッフが講師として、人吉市内の小学生を対象に、川のすばらしさを訴える授業を行いました。これからは、球磨川・川辺川のすばらしさを広く訴えていく活動も多く取り入れていきたいと思ひます。(N.O.)